

災害時外国人支援情報コーディネーター(仮称)制度の研修制度と登録方法について

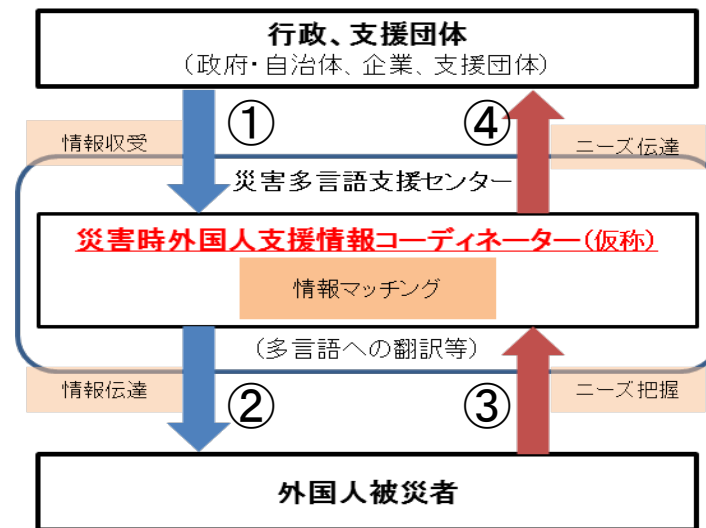
災害時外国人支援情報コーディネーター育成の仕組み(案)

	前期研修	後期研修
期間	3日間	2日間程度
対象等	各都道府県から推薦された以下の者を含む <ul style="list-style-type: none"> 都道府県・市区町村の職員、地域国際化協会・市区町村国際交流協会等の職員 	<ul style="list-style-type: none"> 前期研修を修了した者 又は、各都道府県から推薦をされた、災害時に避難所等で外国人対応を行った経験を有する者
定員	<ul style="list-style-type: none"> 又は、多文化共生マネージャー等で市区町村又は地域国際化協会から推薦された者 	30名程度を想定 (→ 2か年で各都道府県に少なくとも1名ずつ配置可)
研修内容	既存の研修を活用 (例) JIAM 「災害時における外国人への支援セミナー」	<ul style="list-style-type: none"> ○ 災害多言語支援センター役割・運営 ○ 災害時における外国人への情報伝達 <ul style="list-style-type: none"> 災害多言語支援センターにおけるコーディネーターの役割 行政等との連携、情報收受・整理 外国人被災者のニーズ把握、情報伝達 等 <p><研修内容に関する留意点></p> <ul style="list-style-type: none"> 教材として、クリアが改訂を予定している「災害時の多言語支援のための手引き」を活用 研修の中で、センター設置運営の模擬訓練(ロールプレイ)を実施
備考	—	<ul style="list-style-type: none"> 研修修了後、名簿に登録 ⇒ 被災自治体が設置する災害多言語支援センターに配置 研修参加者に対して、各地で実施される災害多言語支援センター設置運営訓練への参加を案内(任意参加) ⇒ 毎年の訓練参加記録を名簿に追記

災害時外国人支援情報コーディネーター育成研修 後期研修内容(案)

1. 災害多言語支援センターの役割について

項目	講義・討議	事例学習・ロールプレイ
センターの概要と位置づけ	○	—
地域の外国人に関する基礎データと被災状況の予測(外国人割合、外国人避難者数の想定など)	○	○
センターの初動体制	○	○
センターの業務・運営(必要な人員、避難所巡回体制、翻訳体制、広域連携など)	○	○



2. 災害時における外国人への情報伝達について

項目	講義・討議 (災害時外国人支援情報コーディネーターに求められる知識)	事例学習・ロールプレイ (災害時に行うべきこと)
① 行政等からの支援情報の収受・整理	<ul style="list-style-type: none"> 行政等から提供される情報の概要 行政等からの情報収集手段 情報の種類のカテゴライズ 	<ul style="list-style-type: none"> 行政等からの情報収集手段の確保
② 外国人被災者への情報伝達	<ul style="list-style-type: none"> 情報提供に用いるツールの種類、特性 	<ul style="list-style-type: none"> 外国人被災者への情報伝達手段の確保 行政等からの情報と外国人被災者のニーズのマッチング
③ 外国人被災者のニーズの把握	<ul style="list-style-type: none"> 地域の特性(訪日・在住、在留資格、出身国、年齢、宗教等) 特性によるニーズの違い 災害フェーズにおけるニーズの変遷 外国人住民との顔の見える関係の構築 ニーズの把握手段(避難所巡回、キーパーソン等) 	<ul style="list-style-type: none"> 避難所巡回による避難者数や必要な言語、ニーズの把握
④ 支援団体へのニーズの伝達	<ul style="list-style-type: none"> 行政等との顔の見える関係の構築 支援団体との関係の構築 	— 3

災害時外国人支援情報コーディネーター育成研修 後期研修課目(案)

※全日程を通じた研修のコーディネーター・コメンテーター役を1名設置

研修課目		担当・講師イメージ
講義 (3コマ)	災害時における外国人への情報伝達について	
	その1 災害対応の全体像、行政等からの情報收受とニーズ伝達	地方自治体 防災担当者
	その2 外国人被災者への情報伝達・ニーズ把握	地域国際化協会職員
討議 (2コマ)	災害多言語支援センターの役割・運営について	全体コーディネーター役
	災害時における外国人への情報伝達について	
事例学習 (3コマ)	多言語支援センター及び外国人への情報伝達に関する事例発表 (地域や災害の種類異なる事例について、3事例)	災害対応経験のある 自治体・協会職員 3名
ロールプレイ (2コマ)	行政等からの情報と外国人被災者のニーズとのマッチング、 情報発信について(体育館等で避難所を再現して実施)	全体コーディネーター役
(その他:オリエンテーション、ふりかえり等)		全体コーディネーター役

※教材として、「災害時の多言語支援のための手引き2012」改訂版(クリア)を活用

災害時外国人支援情報コーディネーター 登録方法(案)

(災害対応未経験者)

(災害対応経験者)

前期研修 修了

後期研修 修了

災害時外国人支援情報コーディネーター候補者名簿登録

- 名簿登録者は、訓練に参加するなどし、情報コーディネーターとしての能力の維持及び向上に努める(名簿には、訓練参加や研修受講の記録などを記載)
- 転居等によって情報コーディネーターを担うことができなくなった場合、本人の申し出や都道府県の判断により、名簿への登録を取り消すことができる
- 名簿は各都道府県、各地域国際化協会に共有